

シリーズ『チーム・エキスパートの解決力』

～ ② 熱中症への対策 ～

(東京海上日動火災保険株式会社 旅行業営業部・東京海上日動メディカルサービス株式会社)

いよいよ夏の行楽シーズンの到来です。今年もたくさんのお客様が国内外の旅行に出かけることが見込まれています。

第2回の今号では、この時期の旅行中に数多く起こる「熱中症」について「事前の対策」と「事後の対応」の観点から旅行会社さんと保険会社の連携について考えます。

■「熱中症」は保険金の支払い対象?

答えは、国内旅行総合保険の場合は「NO」で、海外旅行保険の場合は「YES」です(注1)。

「熱中症」は傷害ではなく疾病であるため、傷害に関する補償項目のみを有する「国内旅行総合保険」ではお支払いの対象にはなりません。「傷害保険金」のお支払いに際する基本的な要件である「急激・偶然・外来の傷害であるか」という観点に照らした場合、急激性を認めることが難しいからです。

一方「海外旅行保険」では傷害と併せて疾病に関する補償項目を有しているため疾病治療・疾病死亡の補償を付保していた場合は「熱中症」はお支払いの対象となります。

このように保険の種類・補償内容の種類に応じて対応が異なります。(注1) いずれも東京海上日動火災保険(株)の商品の場合、海外旅行保険の場合は疾病補償が付帯されているタイプの場合、実際のお支払いはケースごとにより異なります。

■「事前の対策」と旅行会社さんの役割

「熱中症」には「事前の対策」と

「事後の対応」が極めて重要だと言われています。

何よりもまず「熱中症」に罹らないように配慮する必要がありますが、そのためには旅程を心配する中で、考慮すべき観点として次の点が挙げられます。

- ・ スケジュールの策定時に、こまめに涼しい場所での休憩時間を予定しておく。
- ・ 参加者に帽子・日傘や涼しい服装の持参を事前連絡しておく。
- ・ こまめに水分・塩分を補給できるよう飲料等を手配しておく。

また高齢者や子どもなど体力面で特に配慮が必要な参加者に対してはさらに無理のない旅程とすることが重要と考えられます。

国内においては、環境省が熱中症予防情報として地域ごとの暑さ指数「WBGT(湿球黒球温度)」の2日後までの予測を公表しています。WBGTの急激な上昇が予想される場合には屋内の涼しい場所での休憩時間を増やすなど臨機応変な対応を検討する参考にされてはいかがでしょうか。

■「事後の対応」における旅行会社さんと保険会社の連携

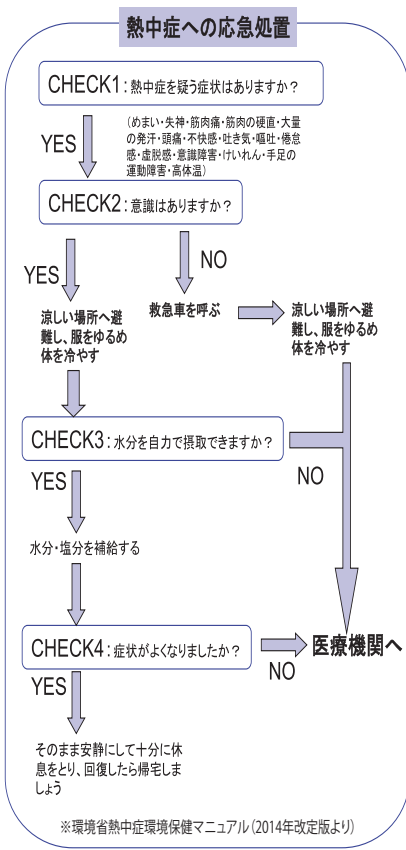
しかしどんなに安全サイドに立った旅程としても「熱中症」に罹ってしまうことはあり得ます。左図の環境省のマニュアルを参考に迅速な応急処置に備えておくことは極めて有効なことといえます。

海外旅行保険・国内旅行総合保険の付帯サービスでは、お客様の中に「熱中症」の症状が発生した場合にもお電話にて医療スタッフがご相談に対応させていただきます(注2)。

このように「事前」と「事後」の局面で旅行会社さんと保険会社が連携することで、「熱中症」の発生の抑制と重症化の防止に貢献することが可能となります。

(注2) いずれも東京海上日動火災保険(株)の商品の場合、東京海上日動メディカルサービス(株)と連携した左記のサービスが自動付帯されています。

海外旅行保険・緊急医療相談サービス
国内旅行総合保険・デイリーサポート



企業の皆様へ 旅行者の持病の悪化、体調不良、思いがけないケガなどの **緊急医療相談** は

東京海上日動メディカルサービスの **メディカルコールセンター** にお任せください!

いつでもどこでも年中無休で医療相談をご利用いただけます。知識と経験豊富な医療のスペシャリストがお電話でアドバイスいたします。

24時間 365日 対応

現役の救急科専門医が常駐 ■ 緊急医療相談サービス
経験豊富な看護師が対応 ■ 一般健康相談サービス
医療機関への道順もご案内 ■ 医療機関案内サービス

お問い合わせはコチラ
東京海上日動メディカルサービス株式会社 営業開発部 ☎03-5299-3104 ✉tmsinfo@tokio-mednet.co.jp